

2016年度  
学校関係者評価委員会第1回議事録

日時：2016年10月7日(金) 19時～20時45分  
場所：15教室

出席者：	吉野たけし氏	山野 晴雄氏	小泉 昌広氏	永井 純氏
列席者：	八尾 勝氏	倉持有希子氏	上松 剛氏	林 恵子氏

I. 聖書日課 列王記上17章12節

YMCA・YWCA 共通の聖書日課「日々の糧」より林事務長が聖句とその解説を朗読した。

II. 議事

1. 委員会の進め方

八尾校長より配布された資料を基に今後の学事歴について説明があった。

また近況報告として次の3点について報告があった。

①10月5日に東京都福祉保健局による作業療法学科の立入指導調査が行われた。財務書類～学生関係の資料、備品の点検等が行われた。結果は後日文書で送付される予定である。

②10月6日に都産振（東京都産業教育振興会）の懇談会が本校を会場に行われた。都立高校の商業、工業、農業科と、就職先の企業が加入している会で都庁の教育庁の中にある。今回ははじめて専門学校を会場として行い、25名の高校校長、中高の教員などが参加。福祉・医療についての情報提供、授業見学や施設見学を通して、専門学校の理解につながった。多くの質問も出され、盛会のうちに終わった。

③医療福祉系の資格の取得の仕方、また社会的な考え方が大きく変わってくるであろう。すでに厚労省のHPにもアップされているが、医療福祉系の資格（PT, OT, ST、介護、看護、保育士・・・など）の取り方について議論されている。まず共通基礎科目学び、その後専門分野の教育を受ける方式に変える方向で動き出している。このことにより一人が複数の資格を取りやすくなり、また、今後さらに地域包括ケアをすすめる上で人材不足を補うことにもなると考えている。

2. 委員の近況報告

出席委員および列席者が近況報告を行った。

3. 委員長・議長選出

委員会の規定に従い議長を互選した結果、吉野委員が議長に決定。

#### 4. 自己点検結果要約版の説明

八尾校長より資料（自己点検の要約版）をもとに要点の説明が行われた。

##### <教育内容の充実>

介護福祉科で実施している模擬試験での学校平均点は例年全国一ヶ台と上位を獲得しているが、それは学力と言う点で他校も同様の悩みを抱えている中での一つの成果と考えられる。（ちなみに2016年7月期は10位）

2016年入学者からは卒業時に国家試験受験となるが、そういう学生の状況の中で合格率を高い水準で維持できるような教育力を持ちたい。

##### <東京都の行政等に協力する>

校長が福祉保健局、教育庁などと積極的に協力し、また東専各、介養協での働きを通して専門学校業界、介護業界に貢献している。このことを通して、常に業界の最新情報をキャッチすることができ、また本校の存在を行政、業界、高校にも知ってもらえる機会となっている。

##### <全国Yとの協働>

全国にあるYMCAとの協働を広い意味での地域活動ととらえ大切にする。

##### <地域との連携>

地域の介護力を上げることを目的として、介護のワンポイントセミナー、介護経理士セミナーを無料で行っている。

##### <学生募集>

多摩地区からの学生の受け入れを促進するため、ガイダンスは多摩地区に限定し他の地区は実績校に絞った。

##### <学生支援>

YMCA独自の奨学金の原資が増えてきて、小額であれば給付型にできる見通しが立ってきた。

##### <収支バランスの取れた運営>

介護福祉科の学生数の減少で全体の収入が減少しているものの、作業療法学科の学生数は開校以来一番多い時と同じ人数である。介護福祉科では付帯事業として2015年にスタートした介護福祉士実務者研修をなんとか軌道に乗せ、収支バランスをとっていきたい。

##### <卒業生との連携をとる>

卒業生を授業の講師として積極的に招いたり、実習先では手のかかる学生達を丁寧に指導してくれ大きな助けになっている。

#### 5. 質疑応答・ディスカッション

委員からいただいたご意見、感想

##### ◆学生募集（広報）に関わること

●学校の特色を出していくためにはやはり学科長がキーポイントとなる。教員、学

生を引っ張ってYMCAの特色を率先して作ってほしい。

●多摩地区を中心として学生募集に力を入れているのは正しいと思う。さらに高校と連携してYMCAを知ってもらう取り組みをしてはどうか？例えば、体験授業などを通して福祉に関心ある生徒をYMCAに招いたり、YMCAがアイデアを出し高校に協力を呼びかけるのも良いと思う。

●YMCAは多摩地区の中では福祉の学校として信頼されている。その信頼を維持し、評価を下げないためには、誰でも入学させるのではなく、どこかで線引きをする必要がある。

●NGO主催などのイベントにブースで出店をすることで新しい展開や知名度、イメージアップに繋がる。例えば、11/13上智大で開催する介護フェスタに参加してみるのはいかがでしょうか。

●自分の病院では、資料請求（求人）してくれた人は絶対に逃さないという気持ちでやっている。3ヶ月後、1年後・・・と何回かに渡り連絡を取り追いかけている。

●専門学校の門をたたくまでの工夫が必要である。我々卒業生をうまく使ってほしい。

#### ◆学生指導、教育に関すること

●学力の低い学生や様々な問題を抱える学生に対応していくためには、教員研修が大切である。

●私の学校では、専門分野ではベテランだが、教育者としては未熟だった新採用の教員達を高校（武蔵野東高等専修学校、専修学校の高等課程）に研修に出し、学生に寄り添うとはどういうことかを学ばせた。

●問題を抱える学生の情報を事前に高校から提供してもらえると良いのではないかな。

●作業療法学科の報告で、後期から学生への課題を失くすことにした、とあったが、課題をやるためのモチベーションをどうやって上げていくのかを検討すべきではないか。

#### ◆その他

●海外からの受入（留学生）は大変な面もあるだろうが、人材不足の中では必要。

●給付型の奨学金を前向きに検討してほしい。

●行政と協力することは大切だが、ともすると振り回されることにも注意した方が良い。

#### 委員からの質問

Q：留学生の受入れは考えているのか？

回答→これまでは卒業しても就労ビザがおりなかったため、介護分野には魅力がなかったが、介護の就労ビザが今国会で通過する予定。そうなると2017年4月から外国人学生の入学の可能性が出てくる。

Q：幼稚園の建て直し検討しているようだが、財政面での見通しはどうか？  
回答→現在は健全な運営がされている。今後40年間はしののめ地区は子供が増え続けると人口動態調査の結果が出ているので、しののめこども園は順調であろう。また2018年で医療福祉の長期借入返済(2,700万円/年)が終了することも考え合わせると、将来的に見てもだいじょうぶであろう。

Q：入学時点で問題を抱えている学生にはどのような対応をしているのか？  
回答→身体的な問題を抱えていた学生の場合、入学前に保護者と本人に来校してもらい、介護福祉士として必要とされる動きができるかどうかの確認を行い、できない動作については日常生活や家庭内で努力してもらうことを確認して入学してもらった。入学後も保護者との連携をとりながらやっているが、現在色々な問題に直面している。

Q：作業療法学科の学力の底上げとは、具体的には何を行ったのか？  
回答→1年次の前期定期試験の前に、主要科目の確認テスト(中間時点でどの程度理解できているかの確認を行うテスト)を行い、結果が悪かった学生達に個別に教員がマンツーマンで関わる。勉強の習慣をつけたり、勉強のやり方を指導しながら、本人のモチベーションを上げていき、結果的に定期試験の成績に反映することを期待している。今年度の前期では対象学生の3分の1に効果があった。

#### 6. 閉会の挨拶 八尾校長

次回の学校関係者評価委員会の日時の確認を行った。

2016年11月7日(月)19時～

次回の委員会では、本日の意見を基にさらに踏み込んだ話し合いを行っていく予定であること、また委員の皆様へ、本日もご出席いただいたことへの感謝の辞が述べられ閉会となった。

記録 林恵子